

E-13 農村のコミュニティーと施設  
広島県立農業試験場 日野勝子

目的 農業改良普及事業のサイドから農村の生活環境整備に手がつけられて数年究極の目的は、(1)新しいコミュニティーの形成 (2)普及の分野でアツクする具体的施設整備の2点である。本調査はこの目的達成の根拠にかつてなりえた部落集会所について、いろいろの角度から調査分析した。これによって現在までの農村のコミュニティーの背景をしり、新しいコミュニティー形成の方向づけの一端にしたいと思った。

方法 県内の部落集会所の実態を県下20ヶ所の普及所を通し、107市町村のうち99市町村のものをもとめた。

結果 (1)設置ヶ所数 99市町村で2691ヶ所(このうち特徴のある50件だけは四角を併せて詳細に調査した)これと市町村別に比較してみると、三次、福山、尾道普及所管内に設置ヶ所数多く、大崎、能美、因島等島しょ部は少ない。理由は、島には敷地がないといえるが、その他の理由として農業形態の相違も考えられる。(2)建設年度と設立目的 明治に建設されたもの3.8%、設立目的は仏事次いで大正10%は一般的集會、青年活動の拠点、昭和40%、戦後45%このころになると設立目的が生活改善、農事研究、老人福祉と明確化する。

今後の方角 調査の対象となつた部落集会所は一見何も無い簡素な建物であるが、既存の施設のうちでは一番よく活用され、ここで農民間のコミュニケーションが行われている。近年これに代つて中央集権的な施設の建設が進みつつあるが、その根拠となつてくるのはこのような分散施設である。新しくともつた集会所を設計してみた。